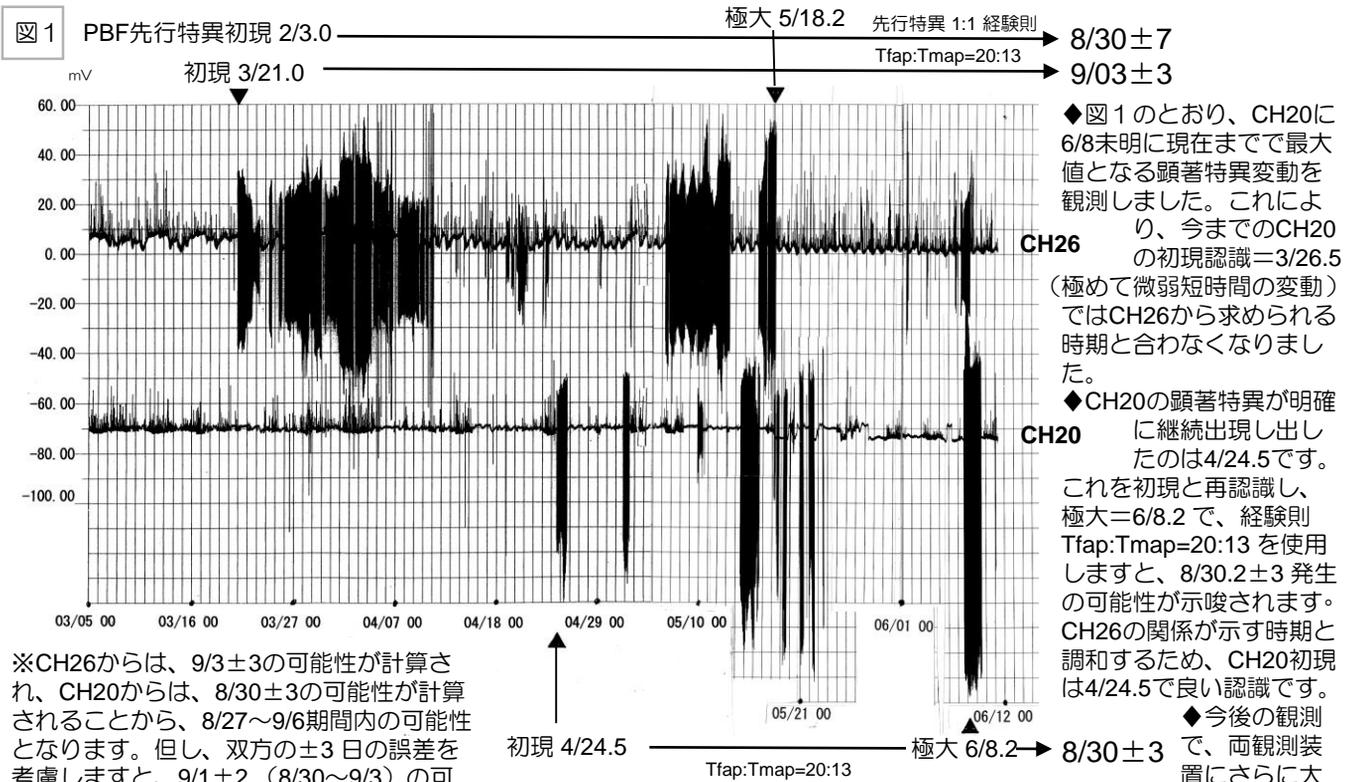
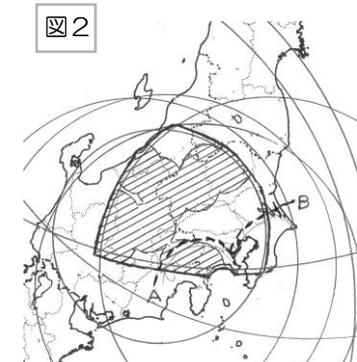


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 長期継続前兆変動 続報 CH20に最大値変動観測 極大の可能性 現時点で考えやすい発生推定時期 9/5±3 → 9/1±2 へ若干修正



※CH26からは、9/3±3の可能性が計算され、CH20からは、8/30±3の可能性が計算されることから、8/27～9/6期間内の可能性となります。但し、双方の±3日の誤差を考慮しますと、9/1±2（8/30～9/3）の可能性が高いこととなります。顕著特異変動が無い現在もPBF特異は継続中。



- 推定領域：図2の太線領域内＝大枠推定領域
図2斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3（単発の場合）または複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい。但し、噴火前兆変動は数日～2週間程度前に出現するケースが多いため、今後出現する可能性も否定はできません。その場合は続報予定。
- 推定時期：9/1±2（8/30～9/3）（最大誤差 8/27～9/6）今後の観測で修正予定
（変動終息推定時期：CH26＝8/5±2 CH20＝8/10±2）

A～B弧線以南の可能性は極めて低い
前兆変動期間＝9/1±2発生の場合は、17年2ヶ月という過去例の無い長期間
○推定地震：震源浅い陸域日本列島の地殻地震
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3（BT変動出現終息時間帯から推定）
※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難
※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。
C) Copyright 2025 YSOB 八ヶ岳南麓天文台